

2017年(平成29年)

11月10日(金曜日)

毎週(金) 14:00発行

発行所 (-財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411(代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌイビル・カチドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>**概況**

10/26~11/1のNYMEX・WTIは、52.64~54.38ドルの範囲で堅調に推移した。

11月2日は、月末のOPEC総会と非加盟産油国合同会議で、協調減産が2018年末まで9ヶ月間延長されるとの観測が高まる中、北海ブレントが60ドルを突破した連れ高もあり、反発した。12月限の終値は前日比0.24ドル高の54.54ドルだった。

週末3日は、引き続き、協調減産の延長による早期の需給均衡への期待感に加え、午後発表のベーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が729基と前週比8基減少したことから、続伸した。12月限の終値は前日比1.10ドル高の55.64ドルだった。

週明け6日は、4日のサウジにおける多数の王族・閣僚の汚職容疑による逮捕の報道を受けて、政権不安定への懸念等地政学リスクの高まり、あるいは、逆にムハンマド皇太子の権力強化による減産強化への期待から3営業日続伸、2015年7月2日以来2年4ヶ月振りの高値を記録した。12月限の終値は前週末比1.71ドル高の57.35ドルだった。

7日は、前日の高値の反動の利益確定売り、ドル高・ユーロ安の進行に伴う割高感から、4営業日振りに反落した。ただ、サウジ情勢の行方への懸念や協調減産延長への期待感が下値を支えた。翌日公表の米国官民の在庫週報の様子見のムードも強かった。12月限の終値は前日比0.15ドル安の57.20ドルだった。

8日は、EIA週報で米国原油在庫と米国原油生産がともに増加したことから、続落した。ただ、サウジとイエメン・イランの関係緊迫化に伴う買いが下値を支えた。12月限の終値は前

日比0.39ドル安の56.81ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(12月渡し)は、前週56.20~59.30ドルの範囲で推移した。11月2日58.80ドル、6日60.60ドル、7日62.20ドル、8日61.40ドルで推移した。

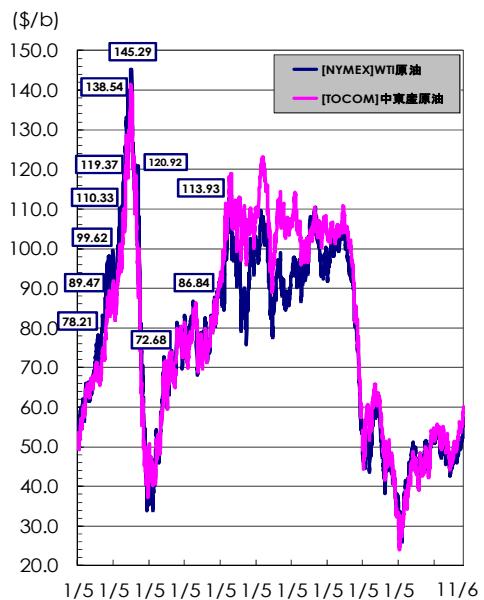
為替は、前週113.16~114.16円とやや円安で推移した。11月2日114.05円、6日114.38円、7日113.73円、8日113.76円で推移した。

財務省が8日発表した貿易統計(速報・旬間ベース)によると、10月中旬の原油輸入平均CIF価格は、38,894円/klとなり、前旬を948円上回った。ドル建てでは54.89ドルで前旬比1.06ドル高。為替レートは1ドル/112.65円。

主要元売会社の11月第3週に適用する卸価格は、ガソリン、軽油、灯油とともに、2.0円の値上げとなった。原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油調達コストは値上がりした。

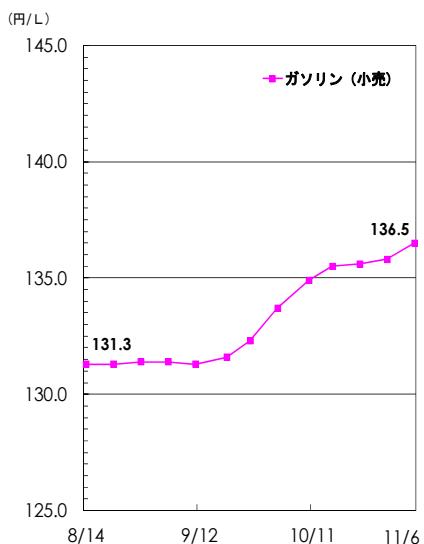
そのような中で、11月6日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.7円の値上がり、軽油は同0.7円の値上がり、灯油は同0.7円の値上がりだった。ガソリンは8週連続の値上がりし、軽油も8週連続の値上がり、灯油は7週連続の値上がりだった。この週(11月第2週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン、軽油、灯油とともに1.0円の値上げだった。

原油		今週		前週比	前年比
需給	原油処理量 (千㎘)	10/29 ~ 11/4	3,419	▲ 248	▼ -
	トップ稼働率 (%)	〃	87.3	▲ 6.3	▲ -
	原油在庫量 (千㎘)	11/4	13,532	▲ 413	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/6	60.01	▲ 2.32	▲ 16.3
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	11/6	57.35	▲ 3.20	▲ 12.5
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月中旬	54.89	▲ 1.06	▲ 9.59
	①原油CIF単価 (¥/㎘)	〃	38,894	▲ 948	▲ 9,713
	②ドル換算レート (¥/\$)	〃	112.65	▼ -0.58	▼ -10.23
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/6	115.38	▼ -0.60	▼ -10.42



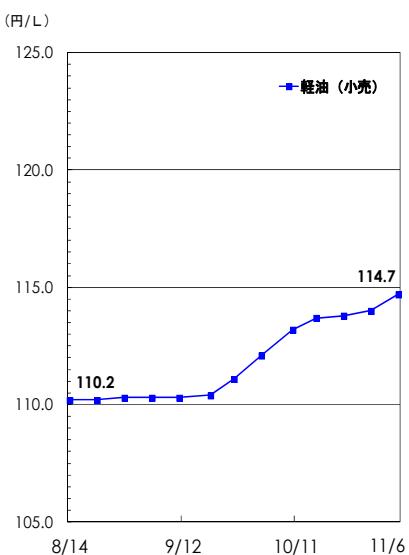
ガソリン		今週	前週比	前年比
需給		(単位: 千㎘、円/㎘)		
需給	生産	10/29 ~ 11/4	1,006	▲ 76 ▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	944	▼ -60 ▼ -
	輸出	"	55	▲ 12 ▲ -
	在庫	11/4	1,584	▲ 6 ▲ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	10/31 ~ 11/6	56.6	▲ 2.5 ▲ 12.8
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/31 ~ 11/6	57.2	▲ 1.9 ▲ 16.0
		11/6	58.2	▲ 2.7 ▲ 17.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/6	136.5	▲ 0.7 ▲ 10.0

※業転、先物価格は税抜き価格

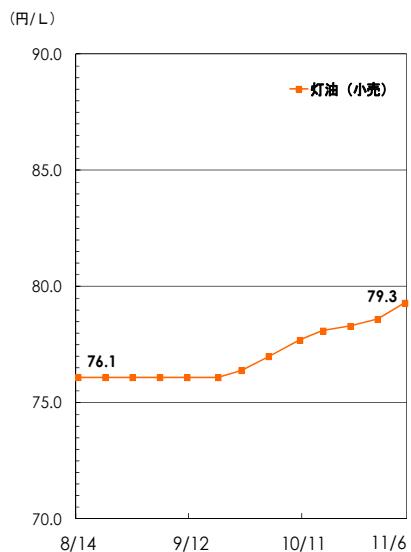


軽油		今週	前週比	前年比
需給		(単位: 千㎘、円/㎘)		
需給	生産	10/29 ~ 11/4	735	▼ -47 ▼ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	565	▼ -133 ▼ -
	輸出	"	142	▲ 12 ▲ -
	在庫	11/4	1,392	▲ 29 ▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	10/31 ~ 11/6	55.3	▲ 1.8 ▲ 11.8
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/31 ~ 11/6	53.0	▲ 0.8 ▲ 12.0
		11/6	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/6	114.7	▲ 0.7 ▲ 9.6

※業転、先物価格は税抜き価格



灯油		今週	前週比	前年比
需給		(単位: 千㎘、円/㎘)		
需給	生産	10/29 ~ 11/4	312	▲ 29 ▲ -
	輸入	"	n.a.	n.a.
	出荷	"	299	▼ -78 ▼ -
	輸出	"	0	▼ -1 ▼ -
	在庫	11/4	2,571	▲ 12 ▼ -
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均]	10/31 ~ 11/6	57.7	▲ 1.9 ▲ 13.5
	先物 [期近物/終値] (TOCOM/東京湾)	10/31 ~ 11/6	58.1	▲ 1.9 ▲ 14.6
		11/6	59.5	▲ 2.8 ▲ 17.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/6	79.3	▲ 0.7 ▲ 13.5



■ 関連情報

1 海外/原油

11月8日のNYMEX市場WTI原油は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比220万バレル増と市場予想(290万バレル減)に反し積み増しになったこと、米国内の原油生産も日量960万バレルと1983年以来の高水準を記録したことから、米国内の供給過剰感が再燃し、続落した。ただ、4日のサウジの有力王族・閣僚等の拘束をめぐる国内情勢の緊迫や4日のイエメンのサウジに対するミサイル攻撃報道によるサウジ・イラン関係の悪化など、地政学リスクが下値を支えた。12月限の終値は前日比

0.39ドル安の56.81ドル、1月限の終値は前日比0.38ドル安の57.05ドルだった。

EIAによると、11月6日時点のガソリンの小売価格は前週比7.3セント値上がりの1ガロン2.561ドル(78.0円/㍑)となつた。ディーゼルは前週比6.3セント値上がりの2.882ドル(87.7円/㍑)。ガソリンは2週連続の値上がり、ディーゼルは4週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、10月29日～11月4日に休止したトップ一能力は22.5万バレル/日で、前週に対して16.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は341.9万kLと、前週に比べ24.8万kL増加。前年に対しては15.3万kLの減少。トップ稼働率は87.3%と前週に対して6.3ポイントの増加、前年に対しては2.6ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてジェット、軽油が減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/8.2%増、ジェット/40.7%減、灯油/10.1%増、軽油/6.1%減、A重油/13.3%増、C重油/18.8%増。今週のC重油の輸入は0.0万kL(前週比2.6万kL減)。軽油の輸出は14.2万kL(前週比1.2万kL増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、A重油が増加し、その他の油種で減少した。前年比では、すべての油種で減少となった。

ガソリンの出荷は94.4万kL(前週6.0%減)と3週振りで前週比で減少、2週振りで前年比で減少となり、2週振りで100万kLを下回った。

ジェット6.7万kL(前週41.1%増)、灯油29.9万kL

(対前週20.6%減)、軽油56.5万kL(対前週19.0%減)、A重油19.4万kL(対前週9.2%増)、C重油19.4万kL(対前週21.6%減)。

(単位:千kL)

	今週 (10/29～11/4)	前週 (10/22～10/28)	前週比
ガソリン	944	1,004	▼ -60 (-6%)
ジェット燃料	67	47	▲ 20 (43%)
灯油	299	377	▼ -78 (-21%)
軽油	565	698	▼ -133 (-19%)
A重油	194	178	▲ 16 (9%)
C重油	194	248	▼ -54 (-22%)
合計	2,263	2,552	▼ -289 (-11%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月4日時点の在庫は、ジェットのみが取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ガソリン、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは158.4万kL、前週差0.6万kL増。前年に対しては0.8万kL多い。

灯油は257.1万kL、前週差1.2万kL増。前年に対しては0.3万kL少ない。

軽油は139.2万kL、前週差2.9万kL増。前年に対しては6.4万kL少ない。

A重油は70.1万kL、前週差1.1万kL増。前年に対しては5.1万kL少ない。

C重油は206.0万kL、前週差2.9万kL増。前年に対しては19.6万kL多い。

(単位:千kL)

	今週 (11/4)	前週 (10/28)	前週比
ガソリン	1,584	1,578	▲ 6 (0%)
ジェット燃料	998	1,052	▼ -54 (-5%)
灯油	2,571	2,559	▲ 12 (0%)
軽油	1,392	1,363	▲ 29 (2%)
A重油	701	690	▲ 11 (2%)
C重油	2,060	2,031	▲ 29 (1%)
合計	9,306	9,273	▲ 33 (0.4%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

10月31日から11月6までの原油コストは、原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、ガソリン109~110円台で値上がり、軽油54~55円台で値上がり、灯油56~58円台で大幅に値上がりして推移した。

海上スポット価格は、ガソリン111~113円台で値上がり、軽油57~59円台で大きく値上がり、灯油57~58円台で値

上がりし推移した。

先物価格は、ガソリン110~112円台で大きく値上がり、軽油53円台で横ばい、灯油57~59円台で大きく値上がりし推移した。

元売の卸価格は、ガソリン、軽油、灯油ともに2.0円の値上げだった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

10月31日から11月6日の原油コストは値上がりし、製品スポット市況は全てで全油種値上がりした。

11月第3週(11月9日~11月15日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(10月31日~11月6日/千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは2.5円の値上がり、灯油は1.9円の値上がり、軽油は1.8円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.7円の値上がり、灯油は1.8円の値上がり、軽油は2.1円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.9円の値上がり、灯油は1.9円の値上がり、軽油は0.8円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替も円安で、原油コストは値上がりだった。

11月第3週の大手元売の卸価格は、全社が、ガソリン・軽油・灯油とともに2.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

	(単位:円/㍑)		
[陸上ローリー4地区平均]	今週(10/31 ~ 11/6)	前週(10/24 ~ 10/30)	前週比
ス レギュラー	56.6	54.1	▲ 2.5
ス ポ ツ	57.7	55.8	▲ 1.9
ト 価 格	55.3	53.5	▲ 1.8

	(単位:円/㍑)		
[期近物/終値][平均]	今週(10/31 ~ 11/6)	前週(10/24 ~ 10/30)	前週比
先 物 価 格	57.2	55.3	▲ 1.9
レギュラー	58.1	56.2	▲ 1.9
軽油	53.0	52.2	▲ 0.8

※上記価格は税抜き価格

	参考値 (10/31~11/6実績値) (単位:円/㍑)		
油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 2.5	▲ 1.9	▲ 2.2
灯油	▲ 1.9	▲ 1.9	▲ 1.9
軽油	▲ 1.8	▲ 0.8	▲ 1.3
A重油	▲ 2.1		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

11月6日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.7円高の136.5円を付け本年最高値を5週連続で記録、軽油は同0.7円高の114.7円、灯油は同0.7円高の79.3円だった。ガソリンは8週連続の値上がり、軽油も8週連続の値上がり、灯油は7週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは43都道府県で、横ばいは3県、値下がりの県は1府だった。全国最安値は埼玉県の132.0円(同1.2円高)、次が千葉県の133.0円(同1.1円高)、最高値は長崎県の145.0円(同1.7円高)だった。最も値上がりしたのは、2.5円高の和歌山県(135.6円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、元売会社の卸価格は、全社・全油種とも1.0円の値上げとなつたが、8週連続でガソリン

小売価格は値上がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいで、原油コストは値上がりした。元売会社の卸価格は、ガソリン、軽油、灯油は2.0円の値上げとなつた。次週(11月13日)のガソリン・灯油の小売価格は値上がりが予想される。

(資源庁公表)[週動向]	今週(11/6)	前週(10/30)	前週比	直近高値
小 売 価 格				
レギュラー	136.5	135.8	▲ 0.7	08/8/4 185.1
灯油	79.3	78.6	▲ 0.7	08/8/11 132.1
軽油	114.7	114.0	▲ 0.7	08/8/4 167.4

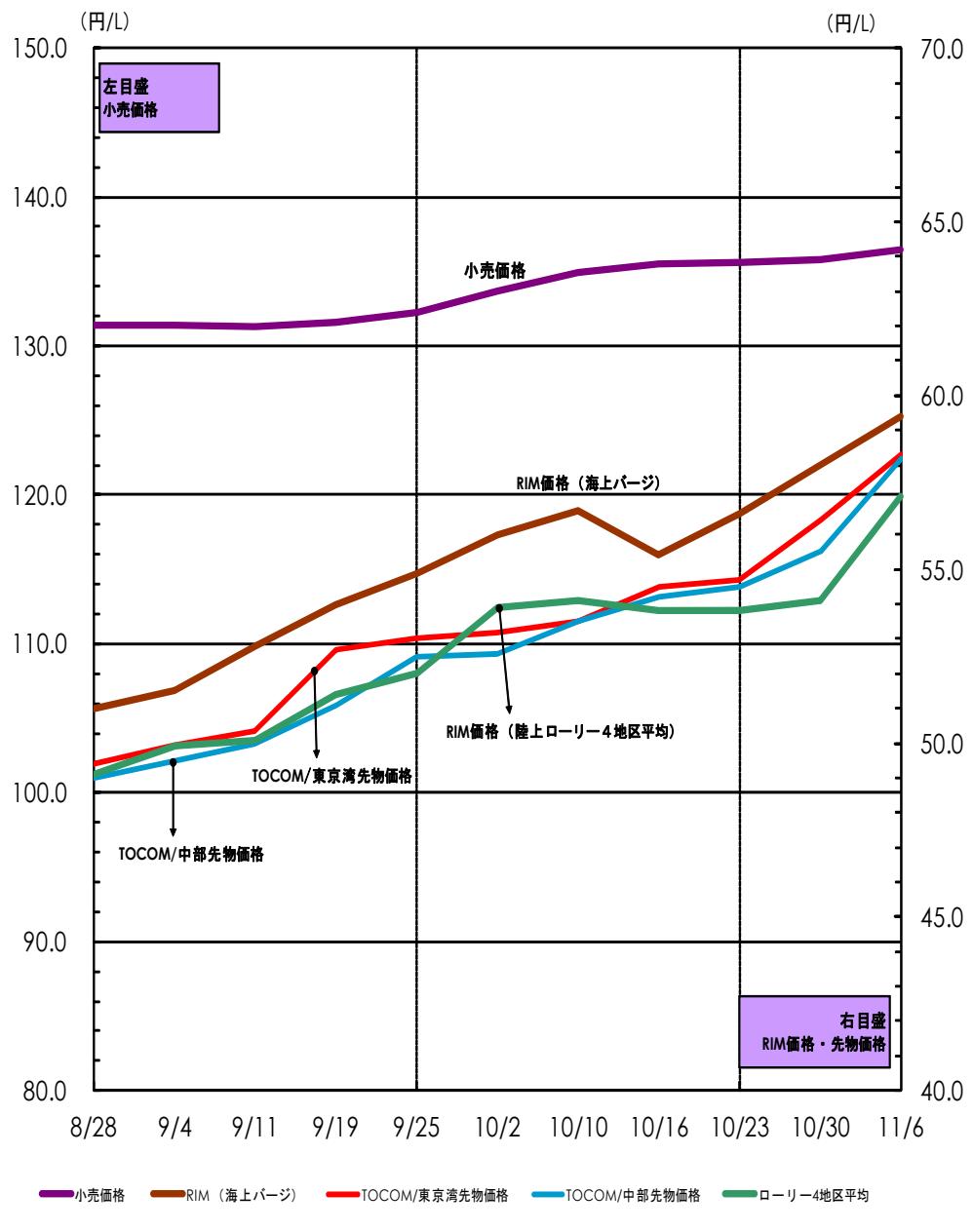
※ 現金一般価格の全国平均値(消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2017/8/28 ~ 2017/11/6)



■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回（2017第31号）の公表は、11/17（金）14:00です。

「セルフSS出店状況」（平成29年3月末現在）は、7月26日（水）14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧下さい。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報（以下、併せて「ドキュメント」）に関するすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター（以下、当センター）又は当センターへドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層（特に給油所経営に携わる方々）から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟（石連）「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所（New York Mercantile Exchange : NYMEX）WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所（The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM）中東産原油の期近物・終値を採用。※「二番限（翌月限）」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM（Telegraphic Transfer Middle rate : 中値）を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」（旬間値）を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社（一次卸）と系列特約店など（二次卸）との間で売買される卸価格。

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社（RIM）「LARRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格（平均値）、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格（平均値）。

⑥【国内製品・小売価格】〈運動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用（資源エネルギー庁HPに掲載）。毎週（月）時点の価格を調査し（水）14:00に公表（資源エネルギー庁HPに掲載）。